

東日本大震災 復興支援レポート 15



沿岸地区のかさ上げ工事の様子

陸前高田市



保育園で



糠塚沢公民館交流会

←↑保育園や公民館の交流会でも、けん玉を使って楽しい時を提供

浜松市で



土官講習会の様子



夕食のための豚井作りでも、地元のボランティアの方の協力に感謝!



昼食作りも楽しい交流の時となった

女川町



緊急用トランシーバー

女川小学校に緊急用トランシーバーが提供された

南三陸町



商店街での子ども会



津波が襲った防災庁舎の前で

大船渡市



一緒にお団子作りをし、食べて、話して、歌って、良い交流



落成したポータルセンターと、セレモニーで挨拶する救世軍代表者

六月十四日、香港からプログラムセクレタリーと財務部長が救世軍本部を訪問。その後、被災地にも出かけ、宮城県女川町の出島に作業船で渡り、救世軍の支援の様子を視察した。
六月十七〜二十一日には、北海道チームが再び岩手県陸前高田市を訪問。この地域を訪れるのは十二回目であるが、町の復興を祈り、交流を感謝しつつ支援をした。今回は、保育士でもあるけん玉有段者がボランティアとして参加し、二つの保育園、通所施設、仮設住宅の集会所や公民館での交流会などで、パフォーマンスをおこなった。昼食は、ちらし寿司などを作って交流会をおこない、夕食は炭火焼きの豚井(豚食)を用意し、食事会をもった。
今回も地元のボランティアの協力を得て活動をおこなうことができ、食事を作りながら、良い交流をすることができた。また、救世軍新生寮(婦人保護施設)から送られた手作りエプロンを協力者に使っていただいた。北海道からのおみやげ(ホッケや菓子、砂場カバー、けん玉など)も喜ばれた。
日常を取り戻しているような光景の中にも、大変な経験があったことを、何人かの方々に聞く機会があった。

六月二十五〜二十七日、静岡県浜松市で、救世軍土官(伝道者講習会)がおこなわれた。全国から三十七人の土官が召集された。テーマ「緊急災害救援活動の学び」の下、緊急災害におけるこれまでの救世軍の支援活動の振り返りがなされ、またこれからの備えについて、災害時の活動や、心のケア・スピリチュアルケアについての研修がなされた。
九月には、関東東北チームが岩手県大船渡市の仮設住宅を訪問し、敬老の日のお祝いを兼ねた集会や交流、子ども会などをおこなった。高齢者や子どもたちと一緒にお団子作りから始まり、集会では、童謡や賛美歌を歌ったり、バンド演奏や大型紙芝居を共に楽しみ、良い交流の時をもった。

大震災以来、三度目の暑い夏になり、救世軍の被災地支援も、被災した人々の精神的・心のケアを意識した支援へと移っている。被災地支援事務局は、地元でできるだけ出かけて行き、話し合いを通して、具体的なニーズをリサーチし、支援につなげている。
七月初めに、宮城県女川町の女川小学校に、緊急時のトランシーバーを提供したが、これはY M C Aを通しての要請に応えたものである。
八月六〜八日、救世軍の青年たちのおこなわれた。参加者たちは地域を回り、今も残る震災の爪痕を実際に見、また救世軍がこの地域で支援した商工会議所やポータルセンター、そして、「南三陸さんさん商店街」を見学。その後、商店街のフードコート前で子ども会をおこなった。仙台小隊(教会)の竹の子バンドを中心に楽しい音楽や歌を提供し、集まってきた子どもたちと共に、輪投げや折り紙、けん玉、スタンプラリーなどのゲームを楽しんだ。
ポータルセンター(仮設大型テント・多目的ホール)は、先の「南三陸さんさん商店街」のすぐそばに建設中だったが、完成し、八月二十四日にオープニング・セレモニーがおこなわれ、救世軍からも代表が出席した。

東日本大震災 復興支援レポート 16

ウエリントン・シタデル・バンド (WCB) in 被災地



南三陸町の防災庁舎跡で祈りを献げるWCB楽隊員たち



「南三陸さんさん商店街」フードコート前での演奏

←ポータルセンターでのコンサート



南三陸町の志津川小学校でのスクールコンサート



↑子どもたちとの交流で盛り上がる



女川町

←女川町「きぼうのかね商店街」でも、寒さの中コンサートをおこなう

キャンティーンカーによる温かいココアと綿あめを提供 →



救世軍が支援した漁場監視船「いづしま」は、出島で活躍している



新しく設置されたウインチで船のメンテナンス作業開始



船をゆっくりと海から引き上げる



船底を掃除したり、点検、修理などをおこなう

女川町出島



シクラメンの鉢を、一軒一軒訪ねて手渡した。



子ども会後は綿あめとホットココアでおやつ

大船渡市



「お茶っこ」を開き、民謡や賛美歌などを歌ったり、地元のお菓子やタラ汁、おこわなどを食べながら、交流の時をもつ



双葉町から避難している方々に手渡した手書きのクリスマスカード



陸前高田市の全小中学校に、石油ストーブが提供された

被災地では、本格的な冬を迎えた。

十一月下旬に、ニュージールランドの救世軍ウエリントン・シタデル・バンドが来日、ツアー中、被災地を訪問した。宮城県南三陸町では、旧志津川駅と防災庁舎の跡を訪れ、ウエリントン市小隊長が祈りを献げた。その後、志津川小学校でスクールコンサートをおこなった。これには、現在、同校に仮住まいをしている戸倉小学校の子どもたちも参加した。子どもたちの知っている曲やユーモアたっぷりの楽隊員たちの演奏に、子どもたちも乗って楽しんでいる様子だった。その後「南三陸さんさん商店街」に移動。近くのポータルセンターでのコンサート前に、商店街で広告演奏をした。ポータルセンターでのコンサートには、約七十人の方が集い、約四十分間、日本のメロディーの入った曲も含まれた、心にしみる演奏に耳を傾けた。

夕方には、宮城県女川町へ向かい、すっかり日が落ちた寒さの中、「きぼうのかね商店街」で演奏した。ここには、東京からキャンティーンカーが出動し、温かいココアと綿あめを、寒さの中で演奏を聞いてくださった人々にふるまっていた。楽隊員たちは、どこでも、積極的な人々との交流をした。

被災地では、震災後三回目のお正月を迎えたが、厳しい寒さの中、復興への道はまだ遠く、月日だけが早く過ぎていくように感じている人々も多い。救世軍は今年も、現地の人々のニーズを聴き、少しでもそれに応える支援を続けていく。

宮城県女川町の離島出島へのウインチの提供は、昨年十一月に設置が完了し、さつそく船の修理やメンテナンスのために用いられている。また、まもなく、同地に非常時の放送設備も提供することになっている。

寒さが加わる中、岩手県陸前高田市内の全小中学校には、石油ストーブと非常食などが提供された。これは、津波警報が出るなど、非常時に電気がなくても使える暖房が必要との要請に応えたものである。昨年のクリスマス前には、郡山市に避難している福島県双葉町の自治会の要請でクリスマス会(定例会)に参加。出席した人々に、ホットココアや手書きのクリスマスカードなどのプレゼントを手渡した。また大晦日には、昨年引き続き、岩手県大船渡市の永沢仮設住宅を訪れ、子ども会や「お茶っこ」を催し、それとともに、各家庭に、シクラメンの鉢を届け、話を聴く時をもった。

皆様のご支援、ご協力を心から感謝申し上げます。

お問い合わせ、ご献金は…… 郵便振替口座 00180-5-4400 救世軍本営 救世軍本営 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 http://www.salvationarmy.or.jp TEL 03 - 3237 - 0881